

☆ 視 点

2014 年を振り返って---中国

2014 年に刊行された「海外速報」(No979~1012 号)の記事をもとに中国の繊維/化繊業界のこの 1 年の動きを振り返った。2014 年の中国経済は習近平国家主席が語ったとされる「新常态」(ニューノーマル)がキーワードであるといわれるが、2014 年の中国の繊維産業についても、これまでの「高成長から伸び率が鈍化、量から質への転換」を進めており、いわゆる「新常态」への対応が鍵となった 1 年であった。

1. 化合繊の供給過剰問題

2014 年は、化合繊、特にポリエステル供給過剰問題が深刻さを増した 1 年であった。中国化繊工業協会の端小平会長は、供給過剰の懸念にしばしば言及している。但し、化繊企業は、こうした懸念に対して、「狼少年の話为例に、生産過剰の指摘に対して聞く耳を持たない、または、麻痺している状況にある(985 号)」状況という。中国では、「2014 年上半期に生産開始されたポリエステル生産能力は 262 万ト、下半期に稼働計画されている生産能力は 200 万ト以上ある。慣性的な能力拡大と市況低迷により、稼働率は落ちている」(1008)。そのため、「中国は、今後 3 年新增設が行われず、既存の工場の稼働率を上げるだけで、年平均 5.5%の需要の伸び率満たすことができる」と述べているほどである(1008)。

こうした状況下、大手合繊企業にもリストラの波が押し寄せている。「ポリエステル大手の儀征化繊は、2013 年度の業績について 2 年連続で損失を計上した」(982)。そのため、「一部の不採算なポリエステル長繊維事業を停止する一方、差別化・高付加価値ポリエステル短繊維に重点(992)」などの対応を取っていたが、結局、「主力のポリエステル繊維事業から撤退、石油エンジニアリング事業に業態を変更する計画を明らかにした(1003)」。また、その他、「大手化繊・染色メーカーの新民科技が化繊部門と染色部門を売却するなど大規模なリストラを行う(990)」など、「中国の化繊産業は周期的な景気低迷期にある中、破産、合併・再編、業績悪化により業界構造の改革が進んでいる(992)」といわれている。

供給過剰に対する中国政府の対応として、引続き老朽設備の淘汰が進められている。「2010~12 年、化繊業界は 122.33 万トの老朽生産設備を淘汰、順調に進んでいる(984)」、「2013 年中に江蘇省は、第 12 次

五か年計画に基づく淘汰計画を2年前倒しで達成した(985)」など、一定の効果がみられるが、「中国の工業情報化部は2014年に廃棄すべき生産能力過剰の企業及び設備リストを発表、染色加工が107社、年産16.5億^{トン}、化繊メーカーは4社、年産6万^{トン}が対象(999)」、「中国工業・情報化部は、第13次五か年期間の淘汰目標計画の制定作業に着手(1007)」、「中国工業・情報化部は、近々、再生ポリエステル業界の参入規制を実施(1008)」など今後もこの動きは進められていく見通し。

2. 高性能繊維の発展

炭素繊維を中心に、高性能繊維の技術開発、用途開発のニュースも数多くみられた。炭素繊維では、「中国化繊工業協会・炭素繊維分会が成立(993)」、「中国炭素繊維・複合材料産業発展連盟が北京で設立(1002)」など業界団体が整備された。企業の動きでは、「吉林省の炭素繊維特色産業基地の完成式が吉林省で開かれ、アクリロニトリル～プリカーサ～炭素繊維～炭素繊維複合材料までの産業チェーンが形成された。原糸の生産能力は年産5,400^{トン}(966)」、「能源化工のPAN系炭素繊維計画、鑑定通過(1012)」、「中国高科集団はロシア複合材料企業集団と、炭素繊維に関する戦略的提携協議に調印。7,000^{トン}規模の産業チェーンを整備する(1008)」など積極的な投資が続いた。但し、炭素繊維の汎用分野では既に競合が激化しており、「寧夏大元化工は、炭素繊維などを生産する嘉興中宝炭素繊維の株式41%を売却し、炭素繊維事業から撤退する方針(1011)」といったニュースもあった。

ほかに、超高分子量ポリエチレンでは、「江蘇九九久科技は建設中の第1期工場(年産1,600^{トン})が完成試験生産段階に入った(980)」、「儀征化繊の超高分子量の生産・販売が国内最大に(1012)」などのニュース、ポリイミド繊維で、「長春高琦ポリイミド材料公司是自主知的財産権を備える1000^{トン}級のポリイミド繊維の生産ラインの開発に成功(986)」、江蘇省連雲港市で、東華大学と江蘇奥神新材料が共同で開発した「乾式ポリイミド繊維工程化重要技術及び設備研究開発プロジェクト」の審査会が通過(1008)」など商業生産に向けた動きもみられた。

中国では、インフラ分野、軍需・国防などに加えて、環境汚染への対策の重要性が叫ばれており、「特殊繊維の需要は今後も高い伸びが予測されている(984)」。

3. 差別化品、新繊維の開発

高性能繊維のほか、新しい繊維、バイオ繊維などが中国の繊維業界では高い注目を集めている。日本では馴染みが薄いですが、中国では、玄武岩

繊維の開発が以前より進められており、「6月、中国化繊工業協会が玄武岩繊維分会成立(996)」、「湖北省襄陽市に世界最大の玄武岩繊維生産基地が建設、一期では1,000トンの生産能力(995)」などがあった。

レーヨン繊維を含むバイオ繊維分野では、「戦略新興産業とバイオベース繊維材料トップフォーラムで、バイオベースPDO、PLA繊維、バイオベースナイロン、アルギン酸繊維などの研究開発と用途開拓が2014年の注目分野(997)」などの動きがあった。レーヨン企業の動きでは、バイオ繊維として、「山東銀鷹化繊と青島百草繊維科技はシルク・麻セルロース繊維の開発に成功(998)」、「上海紡織集団傘下の上海里奥繊維企業発展は、昨年開発に成功したリヨセル繊維の試運転などを経て大量生産に成功(998)」、「新郷化繊は新会社・中紡新郷緑色繊維科技を立ち上げリヨセル繊維の研究開発・生産を本格化(1012)」、「宜賓絲麗雅集団は年産30万トンの新型バイオベース繊維計画の建設に合意(989)」といった計画が発表された。レーヨン繊維では、「賽得利は新ラインを稼働開始。同社の設備能力は年産36万トンに拡大(981)」という大型投資のほか、「唐山三友は、原着レーヨン短繊維を初めて出荷(1003)」、「唐山三友は、異型断面のレーヨン短繊維の開発に成功(993)」、「吉林化繊は、難燃レーヨン繊維の開発に成功(1000)」という付加価値化・差別化への動きもみられた。

PTT繊維では、「江蘇中鱸科技発展は、中国化繊工業協会と中国国家紡織・化繊製品開発センターから、国家生物基PTT繊維製品研究開発生産基地の称号を得た(1010)」、「常州靈達特殊繊維によるPTTカーペット用原糸の重要技術研究及び産業化プロジェクトが科学技術成果鑑定を通過(993)」というニュースがあった。

4. 産業用需要の拡大

2014年は、全般的に中国の繊維需要は鈍化したが、産業用需要は引き続き好調に推移した。「2014年第1四半期の中国の産業用繊維品業界は、売上、利益、投資などいずれも成長、収益も好転(995)」、「中国の産業用ポリエステルFの今後5年の需要の年間平均伸び率は10%を超える見通し(999)」、「2013年の繊維消費に占める産業用の比率は23%であったが、第13次五ヵ年計画では33%~35%などの数値がいわれている(1003)」など現状・将来に明るい見通しも示された。一方で、「中国の産業用ポリエステルFの生産能力は約155万トン/年と世界の60%を占め、2014年は浙江尤夫高新繊維の20万トン/年、浙江古織道の15万トンが加わり、全体として供給過剰の傾向(999)」、「浙江海利得新材料は海寧に

年産4万トンの産業用ポリエステル長繊維に投資(998)」など将来の供給過剰への懸念につながるような新規投資も活発化している。

5. 海外展開の加速

近年、中国の繊維企業は、人民元の上昇、労働力不足、人件費の上昇などから、生産拠点をベトナムなどの低コスト国へ移転するケースが増えている。「中国の大手アパレルメーカーは春節後深刻な労働力不足が続き、ヤンガーは、ベトナムへ10億元規模の工業圏を建設する(982)」、「鹿港科技は鹿港科技ベトナムを設立、ベトナムは中～低級製品の生産を全体の4分の1をメドに行う一方、中国は高級品を中心に生産(989)」、「大手シャツメーカー魯泰は、カンボジア工場で1,200万ドルを追加投資、シャツの年産能力を600万着に倍増する(989)」など特に東南アジアを中心に投資する例が多くみられ、「天虹紡織は、2013年の大幅な増益の要因として、重点をベトナムに移したことを挙げている(986)」という例にみられるように、収益面からも海外展開の動きは加速しているとみられる。

6. その他

上記以外にもいくつかのキーワードが2014年の中国の繊維業界の動きとしてあげられる。

①標準化作業の進展

量的拡大から質的向上を目指す中国の繊維・化繊業界にとって、標準化の重要性が高まっている。「2013年12月、化学繊維標準化工作会議が北京で開催(979)」、「2014年12月、天津で開催(1012)」と中国化繊工業協会は毎年標準化に関する年次総会を開催、特に「差別化繊維、機能性繊維、ハイテク繊維、バイオベース繊維の標準が必要と指摘(979)」しており、2014年も、「中国工業情報化部は不織布を中心に複数の業界標準を発表(1003)」など徐々に標準化を進めている模様。こうした動きを受け、企業ベースでも、「上海石化が起草した難燃性ポリエステルチップの業界基準は2013年6月に正式に施行(982)」、「唐山三友は、竹繊維の標準起草への参画(987)」、「儀征化繊は繊維用およびボトル用ポリエステルチップ、ポリエステル短繊維、長繊維の4つの国家認定標準規格サンプル制定に関与(1003)」など積極的な関与例もあった。但し、一方で、中国の繊維品の市場では、「天猫で販売されるダウンジャケット合格率は23.7%(1012)」、「浙江省品質技術監督局は46企業のニット製衣類に対してサンプル調査を行った結果、不合格率は15.2%(1003)」など、機能に対する信頼性が高いとはいえない状況もあるとみられる。

②綿花等原料の動向

中国は、政府の備蓄、輸入、価格への政策などを含め世界の綿花需給に大きな影響を与えている。中国政府は、「2014年の新疆綿のターゲット価格を19,800元/ト」と設定(987)」として、これまでの政策からの転換を図ろうとするも、依然として、「国産綿花と輸入綿花の価格差から、綿花需要が減少、化繊需要が高まっている(985)」などの影響もみられる。

一方、合繊原料の需給についても、「PXからポリエステルまでの産業チェーン全体が供給過剰の懸念(984)」、「中国のPTAの生産能力はポリエステルの稼働率からみると過剰(991)」との懸念が高まっている。

③染料価格の乱高下

2014年は、染料価格も乱高下がみられた。年前半は「染料価格の上昇から染色企業の利益が悪化(991)」したが、年中盤からは、「過去1年続いた染料価格の高騰が落ち着き始め下落する傾向に(1007)」転じたが、価格下落は、製品価格上昇の支えとならず、逆に「染料価格が下落し、染色企業は苦境(1012)」という皮肉な結果となっている。

④スポーツメーカーの不振

北京五輪以降急速に拡大したといわれる中国のスポーツウェア市場は、「2012年に業界推計で大手スポーツブランドの閉鎖店舗数は5,000店を超えた。2013年は引続き店舗閉鎖が続いた(988)」、「2014年上半期の主要なスポーツウェア企業は依然として供給過剰、今後さらに多くの企業が淘汰される(1001)」と厳しい状況であった。但し、最近では、企業のブランド化、製品開発、小売・流通構造改革などによって店舗閉鎖は緩やかになり、一部企業では経営状況は大幅に改善に向かっている模様。

⑤第13次五ヵ年計画

2014年は、第13次五ヵ年計画に関する繊維分野の内容も一部が明らかになった。9月に開催された中国国際化繊会議において、端会長より、「中国及び世界の化繊産業の発展に関する一考察として第13次五ヵ年計画の策定を控え、中国化繊業界がモデルチェンジするための課題、問題点についてプレゼンテーションがあった(1007)」。中国化繊業界では、「ハイテク繊維、機能性繊維、差別化繊維の三大分野の発展に集中することを明らかに(1001)」しているが、今後、2015年にはその策定が進み、中長期的な繊維業界の目標、将来像が明らかになると思われる。

(担当:業務調査グループ 鍵山)